

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 高生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

高生 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成 2 7 年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については正答率が高いが、他の領域は全国平均と同等である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	漢字の読み・語句の意味・文法事項	
	努力が必要な問題	漢字を正しく書く	

国語B	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」「話すこと・聞くこと」については正答率が高いが、「書くこと」については全国平均をやや下回っており、無回答も多い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	状況に応じて資料を活用して話す。	
	努力が必要な問題	根拠を明確にして自分の考えを書く。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を大きく下回り、その中でも関数、図形での正答率が低く、その2つの分野が苦手ということが明確になった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	計算などの処理する力は全国平均より高くなっている。	
	努力が必要な問題	図形や関数での理解力が乏しく、正答率が低い。	

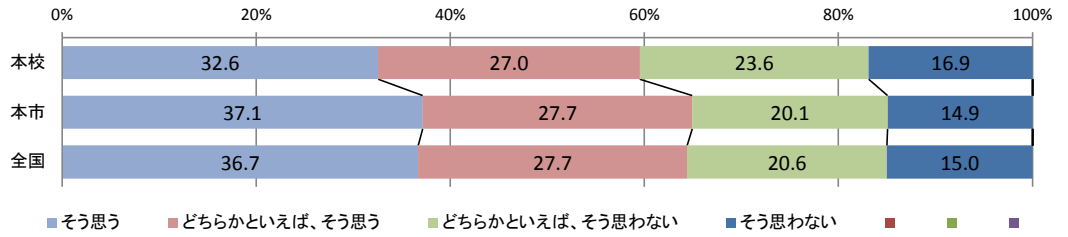
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国を大きく下回り、事象を考察し、理解し、説明や表現する力が乏しく苦手ということが明確になった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	場面を考察する問いの正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	数学的に考察し、説明する問いの正答率が低い。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っていた。 ・観察、実験に関して理解度が低く、記述して表現することが苦手なことが明確になった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	自然事象についての知識・理解に関する正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	観察・実験の技能に関する問題に対して誤答が多かった。	

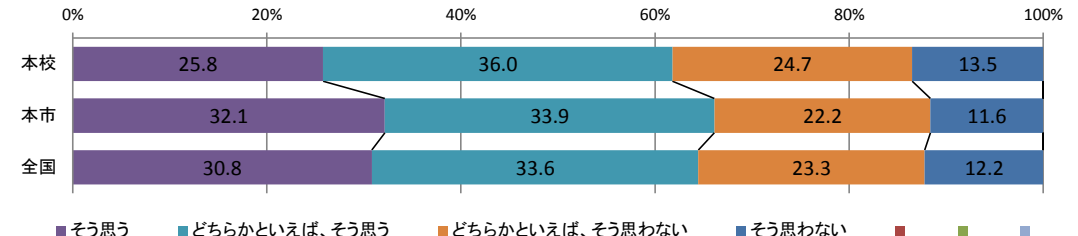
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

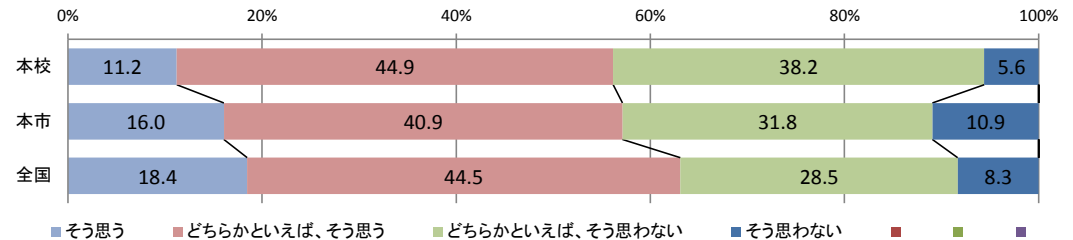
44
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。



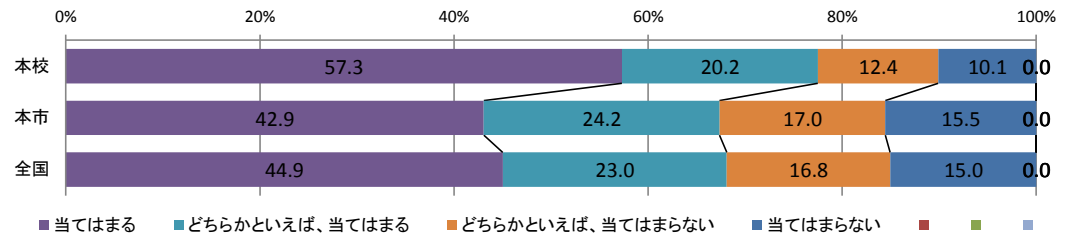
45
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。



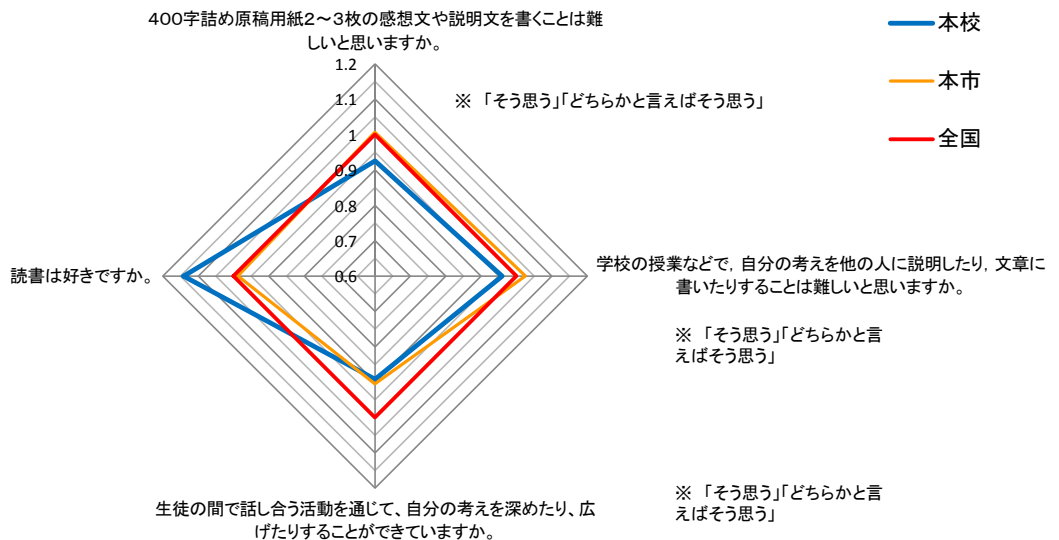
46
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



51
読書は好きですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

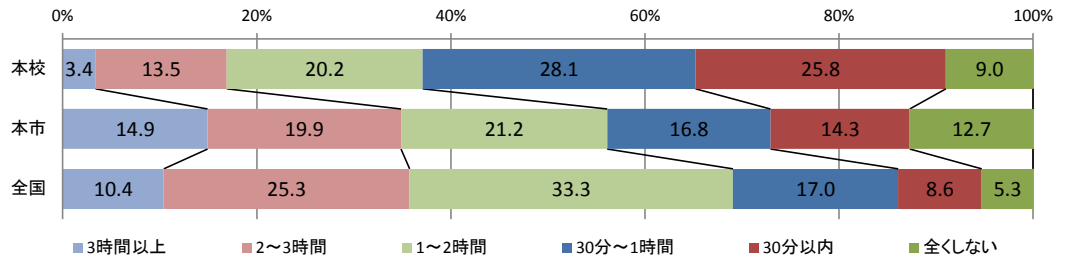
- ・話し合い活動は全国平均に近づいてきている。各授業で話し合い活動を取り入れている成果が出てきている。
- ・「発表する機会が与えられている」と答えている生徒は増加しているものの、まだその差は開いている。今後も引き続き発表する機会を増やす授業を行っていく。
- ・「めあて」を示すことや、授業の振り返りをおこなうことが、全国平均に比べ低いので、今後それらの徹底をしていく必要がある。
- ・文章に書くことに、抵抗感をもっている生徒は昨年に比べ増加している。「書く」ことに関しては、学力調査の結果からも、今年度は無解答率が高くなっており、今後自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、「書く」ことを授業に取り入れる必要がある。
- ・調査結果より、数学ができるようになりたいと考えているが、数学に対する興味の薄い生徒の割合が高い結果となっている。加えて今年度も図形・関数に対する正答率が低いので、今後は、図形分野における論述へ興味・関心が高くなるような工夫をした授業を行っていく。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

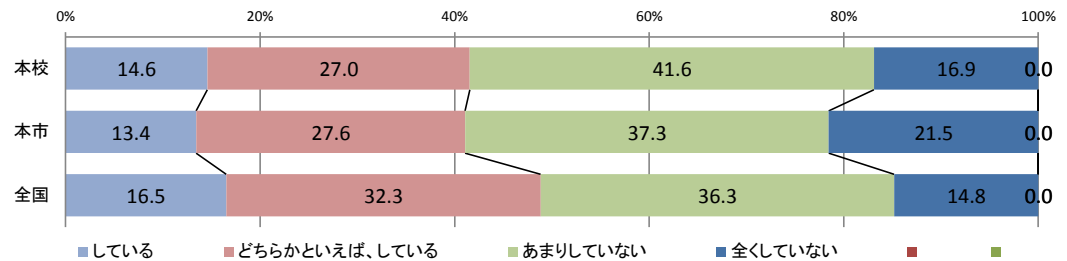
13

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



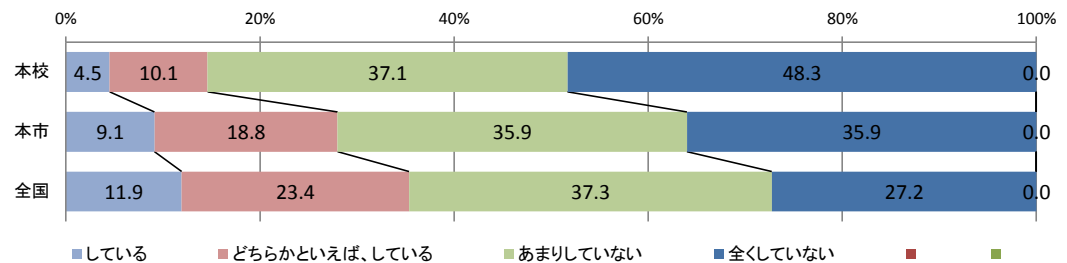
20

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



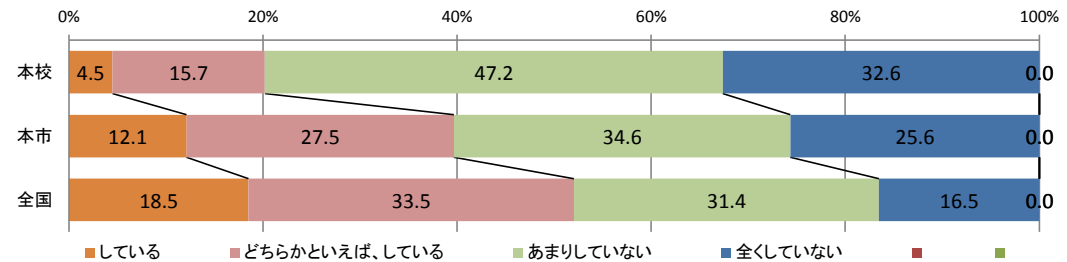
22

家で、学校の授業の予習をしていますか。

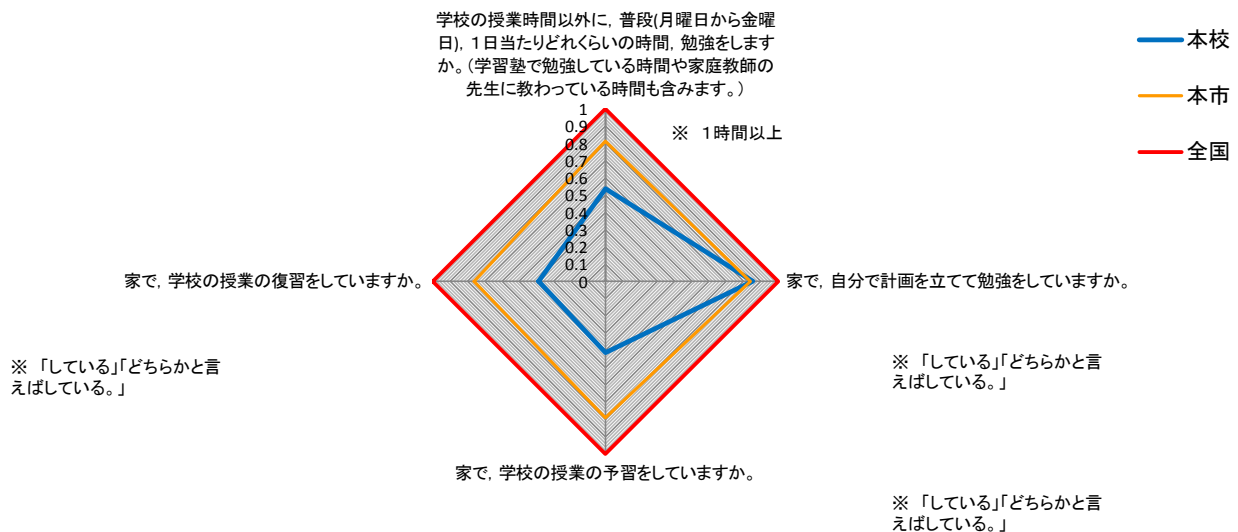


23

家で、学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



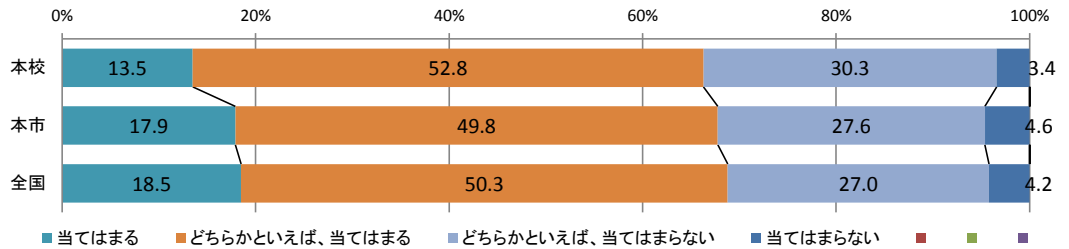
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・家庭学習習慣については、全体的に顕著な変化は見られず、全国と比較して低い数値が続いている。ただし、本調査実施後に自主学習ノート(SSノート)の取組を開始したので現在の家庭学習習慣についての数値は格段に上がっていると考えられる。

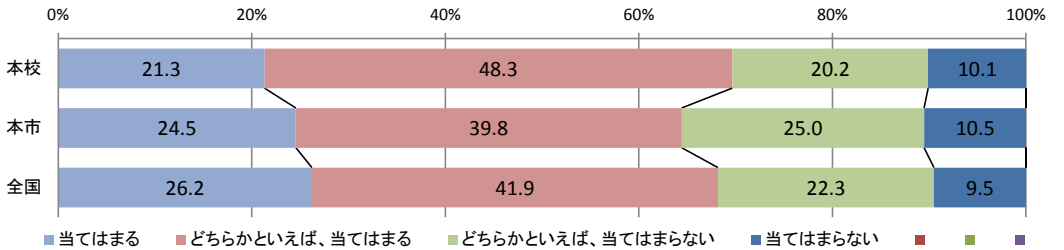
・TV、DVD、テレビゲーム、インターネット、スマホ等に費やす時間が、いずれも3時間以上の生徒が全国を大きく上回っている。家庭学習習慣の定着の妨げになっていると推測される。

④ 生活習慣等に関する調査結果

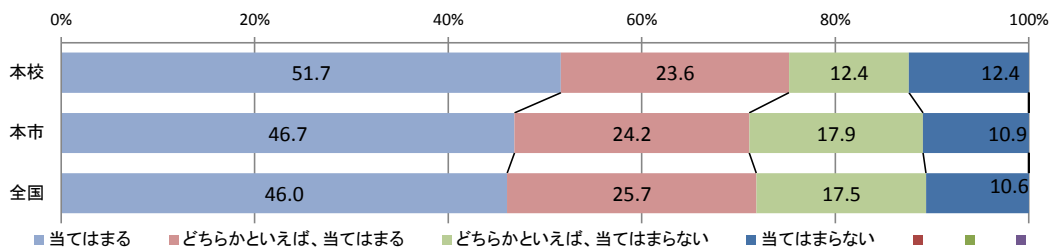
5
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。



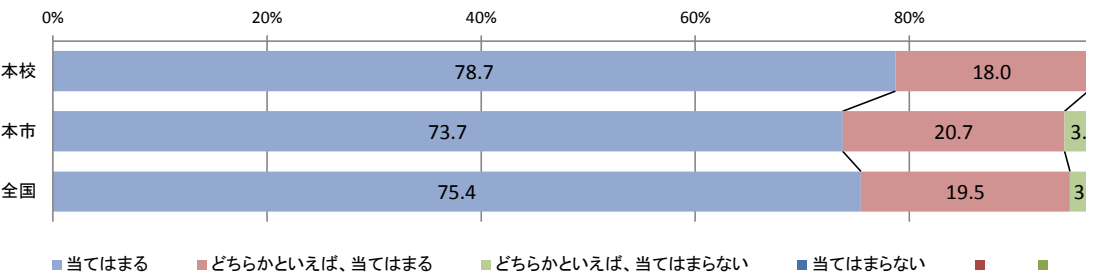
6
自分には、よいところがあると思いますか。



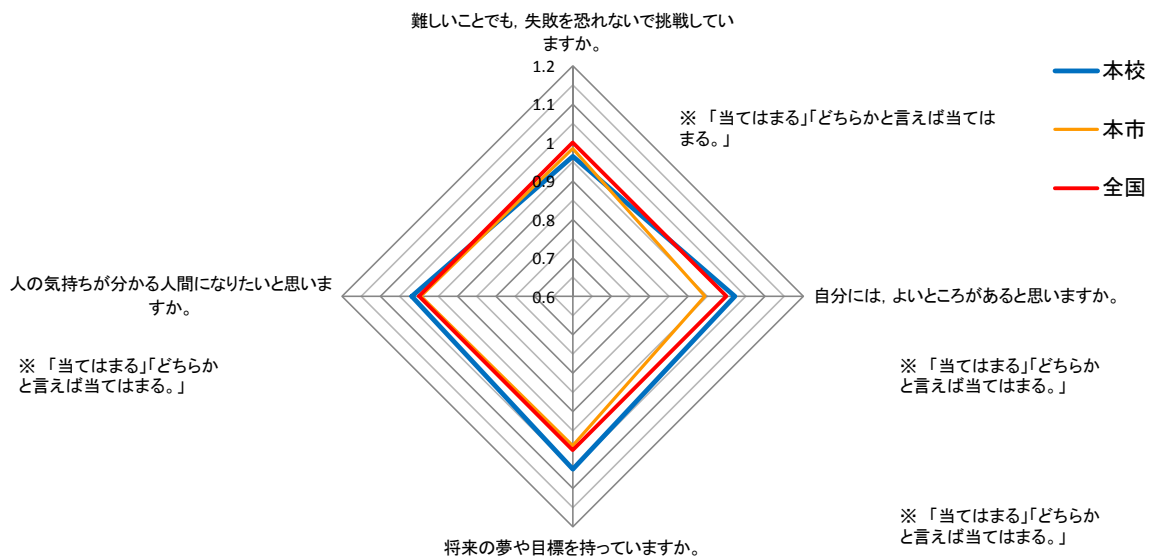
9
将来の夢や目標を持っていますか。



33
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・「自分にはよいところがある」と考える生徒は全国と比較して高くなっている。自己肯定感、自尊感情は高い傾向に変わりつつある。
 ・「夢や目標を持っている」「人の気持ちが分かる人間になりたい」「人の役にたつ人間になりたい」と答えた生徒は、いずれも全国を上回っている。このことは、学校全体の教育活動の中で、道徳教育を中心とした人間形成のための教育、指導が少しずつではあるが、生徒の心を育ててきているためであると考えられる。
 ・「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか。」という質問に対しては全国平均を下回っているため、より高い目標を設定させて取り組みせ、成功体験を増やすことで、いろいろなことに挑戦する力を養っていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎各教科と各学年が連携して、学力向上のための特設時間を設定して実施する
 - ・朝自習で基礎的・基本的な演習を繰り返し行い、確認テストを行う。
 - ・「天声人語」「折々のことば」の視写に取り組む。
 - ・授業ごとに「めあて」を示し、単元毎に、振り返りテストを実施し、再テストや学年と連携した放課後の補充指導を行う。
 - ・定期考査前の放課後教室を、質問を受ける機会にしたり、各教科の実施回数を増やすなどして充実させる。
- ◎国語・数学の過去問題、アシストシート、活用する力を高めるワークの活用
 - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの宿題とする。ポイントは授業中に扱い指導する。
 - ・活用する力を高めるワークをホームページより適宜ダウンロードし、授業で活用する。
- ◎授業規律の確立
 - ・「高中生授業規律スタンダード」を教室掲示して、全校的に指導する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭学習の習慣化
 - 毎日宿題を出し、「宿題テスト」を週1回実施する。
 - ・家庭学習時間を定める
 - ・「SSノート」(自学ノート)を毎日最低1ページ使用して自主学習に取り組み、提出させ担任が点検し、アドバイスをこなう。
- ◎学力向上に向けた取組等を保護者へ周知する。
 - 「家庭学習チャレンジハンドブック」をPTA理事会や学校ホームページ等で紹介し、保護者への啓発活動を行う。
 - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの宿題として取り組ませ、授業でポイントを指導する。
- ◎学校生活の様子を具体的に紹介することによって、子どもと親が家庭で共に過ごし、話題を共有することができるようにする。
 - 学校だより、学級通信などをさらに回数を増やし、内容を充実させ、家庭との連携を図る。